

軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議委員名簿

敬称略（R7. 4. 1現在）

	氏 名	所属・役職	備 考		3/5会議 (第7回)
1	荒井 英治郎	信州大学教職支援センター准教授	学識経験者 及び 支援者	座長	出席
2	本田 秀夫	信州大学医学部附属病院子どものこころ診療部部長			出席
3	三和 秀平	信州大学学術研究院教育学系准教授		副座長	出席
4	木村 泰子	大阪市立大空小学校初代校長			オンライン
5	西郷 孝彦	世田谷区立桜丘中学校元校長			出席
6	福本 理恵	SPACE CEO			出席
7	飯澤 幸世	日本財団公益事業部子ども支援チーム			出席
8	今村 久美	NPO法人カタリバ代表理事			出席
9	西野 博之	NPO法人フリースペースたまりば理事長			出席
10	岡田 敏之	基礎教育保障学会会長 京都市立洛友中学（併設校）元学校長			出席
11	藤木 拓道	義務教育課長	県教育委員会		代理 (唐沢)
12	一色 保典	学びの改革支援課長			欠席
13	向井 健太郎	心の支援課長			代理 (臼田)
14	本城 慎之介	学校法人軽井沢風越学園理事長	町関係者		欠席
15	上原 浩子	長野県軽井沢高等学校長			出席
16	山崎 伸一	軽井沢町立軽井沢中学校長			出席
17	久保 貴史	軽井沢町立軽井沢西部小学校長			出席
18	諸星 ひとみ	NPO法人軽井沢教育ネットワークこんぺいとうの会代表			出席
19	岩崎 ひとみ	NPO法人国際多文化教育推進協会理事長			出席

（事務局）

宮本 隆	軽井沢町教育委員会教育長
内堀 繁利	軽井沢町教育委員会教育推進アドバイザー
岩井 和成	軽井沢町教育委員会こども教育課長
金井 章宏	軽井沢町教育委員会こども教育課課長補佐兼学校教育係長
金井 拓也	軽井沢町教育委員会こども教育課軽井沢高校・教育魅力化推進係長
根津 彩香	軽井沢町教育委員会こども教育課軽井沢高校・教育魅力化推進係
小林 真理	軽井沢町教育委員会こども教育課スクールサポーター
桐野 耕介	軽井沢町教育委員会こども教育課軽井沢高校・教育魅力化推進係
堀本 淳子	軽井沢町教育委員会こども教育課教育支援センター職員

第 6 回 軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議のまとめ

日時	令和 8 年（2026） 1 月 28 日（水） 午後 3 時 00 分から午後 5 時 00 分まで			
会場	軽井沢町中央公民館 大講堂			
出席 （敬称略） ◎座長 ○副座長	◎荒井 英治郎 飯澤 幸世 藤木 拓道 本城 慎之介	本田 秀夫 今村 久美 一色 保典 楠 武明（代理）	○三和 秀平 西野 博之 向井 健太郎 諸星 ひとみ	木村 泰子 岡田 敏之 岩崎 ひとみ 西郷 孝彦
欠席（敬称略）	福本 理恵	上原 浩子	久保 貴史	傍聴者 16 人
事務局	宮本 隆 教育長 内堀 繁利 教育推進アドバイザー 岩井 和成 課長 金井 章宏 課長補佐 金井 拓也 係長 学校教育係 職員 小林 真理 堀本 淳子 軽井沢高校・教育魅力化推進係 職員 根津 彩香 桐野 耕介			
議題	(1) 第 5 回軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議のまとめ (2) 『私たちの学校』づくり」ワークショップ・実践について（中間報告） (3) スクールコンセプトについて (4) 設置場所について (5) スクールデザインについて (6) 学校案内について (7) 申請書類の様式について (8) その他			
当日資料	次第、設置準備会議委員名簿、第 5 回設置準備会議のまとめ、 『私たちの学校』づくり」ワークショップ・実践について、 ワークショップ結果報告、『私たちの学校』づくり」経過報告、 スクールコンセプトに関わる意見・質問と事務局対応、スクールコンセプト、 設置場所について、スクールデザインについて、日課に関わる意見・質問と事務局対応、 日課（第 2 案）、公共施設における町内の生徒の居場所について、 教育課程に関わる意見・質問と事務局対応、教育課程（第 2 案）、学習空間デザイン（第 1 案）、 学校案内（案）、学びの多様化学校申請書様式、夜間中学設置届出書様式			
主な内容（意見、質問等）				
会議次第について 1. 開会 2. 教育長挨拶 3. 座長挨拶 4. 議題 (1) 第 5 回軽井沢オープンドアスクール（仮称）設置準備会議のまとめ 【意見・質問等】なし (2) 『私たちの学校』づくり」ワークショップ・実践について（中間報告） 【質問】・中学校での実践で、実施時期に検討の余地があるとの反省があるが、このような反省はなぜ出たのか。 (3) スクールコンセプトについて 【意見】・夜間中学における就学援助について、市町村で制度が異なるため、そのあたりも含めて検討いただきたい。 ・軽井沢中学校と軽井沢オープンドアスクールの子どもが本当に繋がって、この町をつくっていく大人になれるようにしていただきたい。 ・まずは、今登校できずに苦しんでいる児童生徒を優先で考えていただきたい。 ・軽井沢オープンドアスクールへ通いたいために、意図的に欠席日数を増やす児童生徒が出る可能性もあるため、要件は明確にしていきたい。 【質問】・近隣市町村への広域化は、夜間中学コースだけか。 ・今後、夜間中学コースのニーズの掘り起しはどのように計画しているか。 ・夜間中学コースの広域化について、近隣市町とはどこを想定しているか。 ・軽井沢オープンドアスクールへ通うことのできる生徒の条件はどのようなものか。 ・軽井沢中学校へ毎日通っているが、苦しい思いをしており、軽井沢オープンドアスクールへ行きたいという生徒は対象となるか。				

(4) 設置場所について

【意見】・学校整備にあたり、学校らしさが出ないように配色や仕掛けの工夫をいただきたい。

(5) スクールデザインについて

【意見】・不登校ありきの対策ではなく、不登校を生まない対策を実施いただきたい。

- ・学校の魅力化という言葉だけではなく、子どもが息を吐け、無理せずに行ける学校にしていきたい。
- ・転入学時期を、4月10月に限定せず、フレキシブルに対応いただきたい。
- ・体験入学について、本人も保護者も納得できるものにしていただきたい。
- ・夜間中学コースの修業年限について、生徒によっては校長判断等で変更できるようにしていきたい。

【質問】・定員は何名まで増やせるか。

- ・学びの多様化学校コースにおける1学級の定員は10名で足りるか。
- ・資料にある、公共施設における町内の生徒の居場所は既存中学校の生徒も使うことができるか。

(6) 学校案内について

【意見】・Q&Aについて、高校受験等で不利にならないという文言を入れていただきたい。

- ・成績のつけ方に関わる文言を再度検討いただきたい。
- ・Q&Aで記載のある、費用に係る内容についても再度検討いただきたい。
- ・学校案内の内容が網羅できる動画を作成いただきたい。
- ・オンラインの活用について、現場任せになってしまうことが多いため、運用方法等の枠組みを早めから組んでいただきたい。
- ・どんな先生がいるか分からないと不安な生徒もいるため、先生の写真も掲載していただきたい。
- ・戻り学習や、先に進む学習等、特別な教育課程の考え方を積極的に取り入れていただきたい。

(7) 申請書類の様式について

【意見・質問等】なし

(8) その他

- ・今回は令和8年3月5日（木）、軽井沢町中央公民館にて開催となる。
開催時間については、事務局の都合により16時から18時までとなる。
- ・夜間中学の広報活動について、アウトリーチということで様々な場所で説明をしている。
結果、学齢期および学齢経過者とのコンタクトを取るところまで来ている。
今後、上記の方とコンタクトを取った経過等も含めて報告する。
- ・昨年9月に実施したフォーラムを、令和8年度にも実施する方向で計画している。
令和8年度は、7月12日（日）で実施予定のため、スケジュール確保をお願いしたい。

5. その他

特になし。

【資料 2－1】

「軽井沢オープンドアスクール スクールコンセプト」に 関わる意見・質問と事務局対応

(※黒字は第1回～第5回、赤字は第6回設置準備会議でいただいたご意見)

R8. 3. 5時点

項目	内容	委員の皆様からの意見・質問	事務局の対応
1 設置形態	・軽井沢町立軽井沢中学校の分校として設置	・分校の場合、校長、事務職員、用務が本校との兼務になるが、勤務時間の関係で難しい。そのため、単独校で良いのではないか。	・本校型と分校型の違いを再度整理し、最終的な設置形態を決定していく。
		・本校型もしくは分校型の、義務教育学校型が良いのではないか。小学校と中学校どちらの教員もいるため、色々なニーズを持った児童生徒に対応できる。不登校の児童生徒数の割合が全国と比較して大きいので、小学校段階からオープンドアスクールで学べるようし、多様な大人とともに学べるのは良い効果が生まれると思う。	・現時点では中学校のみを設置し、今後の状況によって他校種についても検討していく。
		・小学生が同じ校舎の中で学ぶ中学生の姿を見て、中学校の年齢になったら学びの多様化学校に通おうと思う。中学に入り卒業したら、同じ学びの多様化学校のある校舎の中で、居場所に通いながらオンラインで通信教育を受けながら高校卒業する。中学校の前後の場をつくることで、学びを継続して大学に行く、あるいは自立するという形もあるのでは。	
		・軽井沢中学校の分校だと、本校（軽井沢中学校）の理念を引き継ぐことになるか。	・分校として設置する場合は、基本的な理念や教育課程は必ずしも本校と同じである必要はないと考えている。
		・軽井沢高等学校との連携型中高一貫校の場合、オープンドアスクールを卒業した生徒の高校での受け皿はどうか。生徒が教室に入れない場合を考慮し、特別なコースを設けるのか。	・町の認識としては、軽井沢高等学校は単位制高校であり、特別なコースは設けなくても不登校を経験した生徒が在籍して学ぶことができると考えている。
		・分校型ではなく、本校型にできないのか。	・「『私たちの学校』づくり」は、オープンドアスクールの設置と、既存の学校のさらなる魅力化を並行して行う取組である。それにより、最終的には既存の学校で不登校の児童生徒数が減少し、オープンドアスクールから「学びの多様化学校コース」がなくなることが望ましいため、分校型での設置を考えている。
		・連携型中高一貫校の場合、高校入試の際の調査書が不要であることは、入試で有利になるのか。それともやはり入試の壁は厚いのか。	・学校教育法施行規則では、連携型高等学校の入試は、連携型中学校の生徒の場合、調査書及び学力検査の成績以外の資料により行うことができると定めている。選抜方法は、例えば愛知県では個人面接等によるとしている。

項目	内容	委員の皆様からの意見・質問	事務局の対応
2 対象生徒	・様々な事情で学校への登校が困難な生徒（不登校の子どもたち）→軽井沢中学校在籍者（又は在籍予定者）を想定 ・学齢経過者のうち、さまざまな理由により中学校で十分に学ぶことができなかった方 ・日本の中学校にあたる教育を受けていない外国籍又は外国由来の方→軽井沢町だけでなく近隣市町村在住者も想定	公立の学びの多様化学校については、設置自治体外からの通学ができない。軽井沢町ではどのように考えているか（スクールバスの運行も含めて）。	学びの多様化学校に通学する生徒は、現時点では町内の中学生のみを想定している。ただし、併設する夜間中学については、近隣の市町村からの受け入れも視野に入れ検討していく。
		近隣エリア等から移住して転入する方が増える可能性もあり、軽井沢町に今いる児童生徒の選択肢になるか不安である。	現時点では、基本的には町立小中学校に在籍している児童生徒を対象として考えている。
		対象生徒の表記方法について、「学齢経過者のうち、さまざまな理由により小中学校で十分に学ぶことができなかった方」のように検討いただきたい。	そのように表記を変更する。
		オープンドアスクールと教育支援センターが協力してサポートできる体制を整えるのがいいのではないかな。	夜間中学コース（仮称）への現役中学生の受け入れを含め、オープンドアスクールと教育支援センターが同じ理念のもと児童生徒をサポートしていけるようにする。
		京都市立洛友中学校は昼間部と夜間部の交流ありきでやっている。町内だけの募集ではなく、隣接する市町村との覚書の締結を県が主導してほしい。また、三豊市立高瀬中学校は隣接する徳島県から通学している生徒もいる。保護者にも協力してもらい、できれば県外も含めて生徒を募集したい。	夜間中学コース（仮称）については、軽井沢町だけでなく近隣市町村への広域化も想定している。
		学びの多様化学校コースは、町内の全ての児童生徒が対象になりうるか。欠席が多い児童生徒だけでなく、登校できているが苦しい思いをしている児童生徒も通いたいと思うのではないかな。	学びの多様化学校の対象となる児童生徒の範囲は、文部科学省は「不登校状態である児童生徒」や「不登校傾向が見られる児童生徒」を想定しており、学びの多様化学校コースの対象もそう考えている。ご指摘のような児童生徒については、「『私たちの学校』づくり」を通して、苦しさが軽減されるように対応を考えていきたい。
		学びの多様化学校コースは、定員が決まっている以上、現在登校できず苦しい思いをしている児童生徒を優先するべきではないかな。	ご指摘いただいた点も参考に、検討していく。
		転入学の要件について、欠席日数の多い児童生徒の受け入れを優先するかどうか等、事務局内でもう少し明確に検討した方が良い。	
		学びの多様化学校は、「不登校傾向が見られる児童生徒」として、在籍学級に入れない児童生徒や、強い特性等から不登校傾向にある児童生徒等が該当するとされている。オープンドアスクールがそのような児童生徒を受け入れることで、既存校も近づけていけると良い。町全体として進めていってほしい。	ご指摘の通り、今後もオープンドアスクールの設置と既存校の魅力化を並行して進めていく事業を、町では「『私たちの学校』づくり」として進めていく。

項目	内容	委員の皆様からの意見・質問	事務局の対応
2 対象生徒	・学齢経過者のうち、さまざまな理由により中学校で十分に学ぶことができなかった方 ・日本の中学校にあたる教育を十分に受けていない外国籍又は外国由来の方→軽井沢町だけでなく近隣市町村在住者も想定	・現在苦しい思いをしている現役の中学生在が通うことも想定されるため、夜間中学コースもまずは町内在住者を優先して受け入れてはどうか。	・学びの多様な学校コースは、まずは町内在住者を対象としていく。夜間中学コースは広域化を想定して進めていく。なお、現役の中学生在が夜間中学コースを活用することについては、状況を見ながら柔軟に対応していきたいと考えている。
		・広域化を想定しているのは夜間中学コースのみか。学びの多様な学校コースも広域化を想定するとありがたい。	
		・就学援助の基準は市町村によって異なる。夜間中学コースの受け入れの広域化に伴い近隣市町村と覚書を締結する際、その整合性をどう考えるか。県の主導や調整もあると良い。	・今後、県教委とも相談しながら、覚書の締結に向けて該当市町村と協議を進めていく。
		・「近隣市町村」はどこを想定しているか。それ以外の市町村の在住者から入学の希望があった場合、受け入れは可能か。	・現時点では、御代田町、佐久市、小諸市、立科町を想定している。それ以外の市町村からの受け入れについては、状況を見ながら考えていきたい。
		・夜間中学コースの対象者（ニーズ）の掘り起こしを今後どのように行っていくか。	・町内では、引き続き広報（聞き取りやアンケート等）を行う。近隣市町でも、できるだけの広報を行えるよう考えていきたい。
3 設置場所	・町内の既存公共施設（必要な範囲で改修等を行い使用）→軽井沢高等学校の北校舎	・生徒がまた登校したいと思えるよう、大規模な改修が必要と思われる。例えば風越公園オリンピック記念館を少し改修すれば、運動場も体育館も風越公園にある。	・生徒にとってより良い学びの場となるよう、改修等の環境整備を行っていく。
		・チャイムや先輩の存在等が、オープンスクールに登校する生徒にとってどう影響するのかは十分検討する必要がある。	
		・候補地は、資料に記載の3か所だけか。増える余地はあるか。	・候補地は、軽井沢高等学校で考えている。
		・予算も含め、将来を設計しやすい場所を選んでいただきたい。	
		・軽井沢中学校が素敵な環境なので、同程度の環境を準備いただきたい。	・改修により必要な環境整備を行うとともに、開校後も、生徒の意見を反映しながら改修等を行っていく。生徒自身で学びの場をつくっていくことを大切にする。 ・生徒の学びの場所は校内に限らず、町内の豊かな自然、歴史、文化、人材等を活用していきたい。新設教科「ネイチャータイム（仮称）」等で校外学習も取り入れる。
		・音を出す活動が好きな子どももいるため、音を出すことができる環境をつくってほしい。	
		・発達に特性のある生徒のためにも、プレイパークのような、思いっきり遊べる空間が必要なのではないか。	
		・校庭で焚火をすること等ができる環境か。	
		・台所をつくるなど、食事をつくる活動が実施できる施設がいいのではないか。	
		・職員が生徒について語り合える場所は、職員室以外に設置できるか。	

項目	内容	委員の皆様からの意見・質問	事務局の対応
3 設置場所	・町内の既存公共施設（必要な範囲で改修等を行い使用）	・軽井沢高校に設置する場合、通常通り高校が運営している中に間借りをするということか。	・独立した北校舎棟の大部分を利用する。児童生徒の声を聞きながら、改修により必要な環境整備を行うとともに、開校後も、生徒の意見を反映しながら改修等を行っていく。
		・軽井沢高校に設置する場合、北校舎を独占できるのか。また、その場合、どの程度改修可能か。	
		・どんな環境なら通いやすいか、子どもたちの声を聞くのが良いのではないか。	
		・給食はないとのことだが、給食だけが栄養源という生徒もいる。学生食堂は利用できないか。	・軽井沢高等学校には学生食堂がないため、利用はできないが、個別の状況に応じ、困る生徒がいらないよう検討していく。
		・オープンドアスクールにはどんな生徒が集い、どんな学びをするのかなどについて、軽井沢高等学校の教職員の研修や準備をお願いしたい。	・高校とも連携し、検討していく。
		・今年1月に横浜市に開校する横浜きりん学園（私立の義務教育学校で学びの多様化学校）がある。既存の中学校の校舎を改修して快適にしている。機会があれば見学できると良いのではないか。	・検討していく。
		・学校の中に学校を設置することで、学校に行きづらくなったり学校の仕組みに合わなかったりする生徒の学びをどのようにして一人残らず保障するかという心配がある。教育支援センターや民間施設との連携を考えていく必要がある。	・教育支援センターとは当然連携していく。民間施設との連携や協働も進めていく。オープンドアスクールでは、教員だけでなく相談員や支援員等多様なスタッフが生徒の学びを支えていけるようにする。
		・高校に協力していただき、チャイムの音等、学びを変えていくことを一緒にできると良いのではないか。	・高校側と相談しながら検討していく。
		・「高校が設置場所であれば行きたくない」という意見があると聞いた。内装だけでなく、外から校舎までの動線も「学校っぽくない」という印象を与えるようにしてはどうか。	・できるだけそのように配慮しつつ、開校後も生徒の意見を反映しながら必要な改修等を行っていく。
4 姿	・自分のペースで学ぶ	・現状の空間で、定員は両コース合計で45名である。現状の空間に対し、定員は今後どれくらい増やせそうか。	・現状の空間で、定員をこれ以上増やすことは難しいと思われる。
		・学習に関して、自分の好きなどからまずやりたい、自分のやり方で勉強したいという子どもたち（不登校の子どもたち）が来ているという実例がある。 ・学習のあり方をもう一度見直したほうが良い。教師主導で、本時のゴールや見通しが分からず、不安を感じている児童がいるということを感じている。	・少人数で、個々の興味関心や習熟度に応じて学習を進めることを想定する。

項目	内容	委員の皆様からの意見・質問	事務局の対応
4 学びの姿	・自分に合った時間帯で学ぶ	・夜間中学が教育支援センターのような位置づけで現役の中学生に開かれている例もある（体験入学を経て、納得がいけば転籍となる）。それも視野に入れて設置準備を進めてはどうか。	・ご指摘のような点も参考に、学びの多様化学校と夜間中学の併設の利点を生かし、生徒にとってより自分に合った学びができるよう検討していく。
		・現役の中学生が夜間中学に通えるようにする場合、在籍は原籍校とし、教育支援センターのような位置づけになっていくのか。そのような制度として考えていくのか、どこかで議論した方が良い。	
		・NPO法人カタリバが足立区立第四中学校の夜間学級で現役中学生の不登校生徒の支援をしており、効果は実証されている。現役の中学生が通える可能性は残してもらいたい。三重県では学びの多様化学校と夜間中学それぞれに昼間部と夜間部両方を設置している。そこに教育支援センターのような機能を加えることで、フレキシブルなしくみになるのではないか。	・時間設定については、学びの多様化学校と夜間中学併設の利点を生かせるよう、先進事例や町内の実情を勘案し、引き続き検討していく。
		・働いている方にとって、夜間中学16:00登校は不可能である。登校時間を17:30に遅らせ、下校時間は公共交通機関のあるぎりぎりの時間にしてはどうか。	

項目	内容	委員の皆様からの意見・質問	事務局の対応
5 生活の姿	・ありのままにいられる場所 ・安心できる居場所 ・くつろいだり遊んだりできる場所	・生徒の発達特性を取り除くことはできないが、環境を整えることはできる。どうしたらそういう生徒が通える環境になるかを、従来の枠にとらわれず考えていく必要がある（遅刻をとらないなど）。	・児童生徒の意見を取り入れながら、多様な人が年齢や国籍等を超えて学び合えるような環境を整備していく。
		・子どもの居場所づくりを進めるなかで、子どもたちにどんな居場所がよいかを聞いたときに出てくる答えと対応するようなアンケート結果である。	
		・椅子や机、照明、靴等について、既存の学校とどう差別化していくかの細かな環境設定が必要。備品だけでなく教職員やルール（遅刻をとらない等）も含めた丁寧な制度設計が必要。	
		・具体的な場面に身を置きながら、自分に合った環境を確かめたり、自分と他者の感覚が違うことを知る機会があったりすると、他者とどう共生するかの対話につながるのではないのか。	
		・オープンドアスクールの売りをもう少し突き詰めていく必要がある。今のままでは少しイメージが湧きにくい。	・今後、さまざまな手段で学校の概要やイメージを周知していく。
		・発達に特性のある生徒が教室（校舎）を飛び出した時、どう対応していくのか。既存校で対応が上手くいっていないため教室飛び出しや不登校となっている可能性がある。今後既存校での知見はどのように生かされていくのか。	・オープンドアスクールは、スクールコンセプトの「4 学びの姿」や「5 生活の姿」を実現することで飛び出すような状況はつくりたくないようにしたいと考えている。もし飛び出しがあった場合は、別室でのクールダウン、教職員や町のスクールサポーター（SS）等により対応していく。
	・必要なのは自分たちで話し合っ - て決定	・ルールや校則はゼロベースで始めるべき。これだけはルールとして作って欲しいというところから始まらない限り、既存の学校と変わらない。 ・既存のルールや校則をなくすことはショックを伴う。それを想定しながらなくすことが大切では。	・安全に関するルールや校則以外はない状態でスタートし、よりよい学校生活を送るために必要な事柄については、入学後に生徒と教職員で話し合っ - て決定していく形を考えていく。

項目	内容	委員の皆様からの意見・質問	事務局の対応
6 教職員	・展開される学びの姿や生徒の姿を保障できる教員、ともに学び成長できる教員、管理的だったり上から目線ではない教員（教員研修の充実）	・先生がみんなの前で怒ることが嫌だという児童生徒の意見が印象的である。教員が当たり前にしていることも、教員と子どもたちの間には意識の差があることは気を付けたい。 ・教員は「指導は一瞬で暴力に変わる」ことを自覚し、指導を捨て、環境をつくる必要がある。 ・「指導」をやめ、どのように子どもたちを「支援」していかなければならないのかという視点も必要ではないか。 ・設備や制度が良くても、働いている教職員の理解がないとうまくいかない。管理者も含めて、どういう教職員を配置するのが最も重要。 ・校則は大人が子どもを管理する手段である。大人がどれだけ子どもを信頼するという覚悟を決められるかが大事。 ・オープンドアスクールに関わる学校教員向けのワークショップが何よりも大事。どんな思いで、何を大事に、どのように子どもを信じたオープンドアスクールを作るのかという議論（合意形成）が尽くされないと根本が崩れるのではないか。	・開校前は、長野県教育委員会とも教職員の配置等について相談していく。開校後は、職員研修等により、教職員間の対話を充実させる。さらに、既存の公立学校が、生徒や保護者にとってより魅力的な学びの場となるよう、町内の教職員合同研修等でオープンドアスクールの実践から学び合う機会を設けていきたいと考えている。
7 地域との連携	・探究的な学びや部活動等課外活動に関わる高校生との交流	・屋外の環境が大事である。アイスホッケーリンク、ベンチ、校庭等、高校生による活用プロジェクトが動いていくと交流がスムーズになり、1つのコミュニティになっていくのではないか。	・中学生と高校生双方の希望を聞きながら検討していく。
その他	全体に関わって	・このスクールコンセプトは、既存校をより良いものとしたうえで、そこに通えない子どもが通う最後の砦をつくるという認識でよい。	・軽井沢町では、「『私たちの学校』づくり」として、オープンドアスクールの設置と既存の学校のさらなる魅力化を並行して取り組んでいる。
	修業年限	・夜間中学コースの修業年限をどのように設定するか。三豊市立高瀬中学校では、義務教育の年数と同じ9年間としている。	・原則、最大6年間までの在籍と考えている。

【資料 2－2】

「軽井沢オープンドアスクール スクールデザイン」に関わる 意見・質問と事務局対応

(※黒字は第5回、赤字は第6回設置準備会議でいただいたご意見)

R8. 3. 5時点

項目	内容	委員の皆様からの意見・質問	事務局の対応
日課	登下校の 時間や手 段	・もっと早い時間帯での学びを想定していた。この場合生徒はどう通学してくるのか。家族の送迎か。	・既存校への通学と同様によるものと考えているため、スクールバスの運行については、現時点では計画していない。
		・学びの多様化学校コースの生徒が徒歩で登下校できるのかを考えると、電車の時間に合わせてスクールバスが走ると利用しやすいのではないか。	
		・生徒が電車やバスに乗れない場合、登下校が送迎となり家庭の負担が大きくなる。専用のスクールバスがあるとありがたい。	
		・家庭の送迎の都合で開錠時間よりも早く登校したい場合、高校の図書館で待機できると良いのではないか。	・家庭のニーズがある場合、別紙で示したように、オープンドアスクール以外の町内の施設を活用することも検討していただく。
		・資料で示された町内の施設は、学びの多様化学校コースの生徒だけでなく、町内の既存校の児童生徒も利用できるか。	・利用できる。
		・登校時間は何時くらいを想定しているか。既存校の下校時間と重なるのではないか。	・登校時間は生徒によってさまざま、既存校の生徒と会いたくない場合はその時間を避けて登校することになると想定される。
	夜間中学 コース (日本語 学習)	・就労している外国人から、日本語習得の希望が出ている。その場合も4時間出席する必要はあるか。仕事の終了時からの部分的な出席でも良いのか。	・日本語の修得のみを目的とした夜間中学コースへの入学は認められないが、仕事の終了時からの出席は可能である。
	夜間中学 コース (オンラ イン授 業)	・通学したいが事情があってできない生徒のために、オンラインでの学びはできるようにしてほしい。	・オンライン授業を出席扱いとするための条件を整理し、対応できるようにしていく。
	マイプラ ンタイム ①・② (仮称) の運用	・学びの多様化学校コースのマイプランタイム①・②はあくまで自習としての位置づけか。この2コマに出席すれば3・4時間目は出席しなくて良いというわけにはいかないのか。	・学校の時間割としてはこのように設定しているが、オープンドアスクールでは、この時間割に関わらず、個々の生徒の学びが行われることを想定しており、そのような学びについてもその成果を成績に反映する。
	3・4時 間目(2 つのコ ース共 通の時 間)の 出席	・この時間がオープンドアスクールの肝になると思われる。学びの多様化学校コースの生徒がこの時間より早く帰宅するのはもったいない。家庭にも協力してもらい、ぜひ参加できると良い。	・生徒や保護者にオープンドアスクールの理念を理解していただき、可能な限り両コースの交流ができるよう推進していく。

項目	内容	委員の皆様からの意見・質問	事務局の対応
日課	全体に関して（時間帯）	この日課（時間帯）は、勤務する教職員のシフトを回すためのものではないかと考えてしまう。生徒の最善の利益（ウェルビーイング）を実現するためのものか疑問である。なぜこのような時間割なのか。	あくまでもオープンドアスクールの理念（異年齢集団による学び）にもとづく。時間割として決まっているものはあるが、生徒個々のペースに合わせて学校で過ごす時間を選択できるようにしていく。
	全体に関して（運用）	社会の中で、夜間中学に求めるニーズが変わってきている。学びの多様な学校コースの時間帯にも夜間中学の対象者が通学できるという認識で良いか。	オープンドアスクールの理念であり、そのように考えている。
	全体に関して（休み時間）	休み時間がほとんどないのは、教室の出入りを自由にできるからか。休み時間も重なるようにして2つのコースの生徒が交流できると良いのではないか。学校に来る目的は学習だけではないことも考えると、やはり休み時間は必要と思われる。	授業中であっても、生徒が個々のペースで休憩したり生徒同士が自由に交流できるようにしたいと考えているが、2時間目と3時間目の間に20分間の休み時間を設け、両コースの交流の時間をとることで、共通の授業に向けた準備ができるようにする。
	全体に関して（高校の活動への参加）	3、4時間目に高校の部活動に参加したい場合、柔軟に対応できると良い。	生徒の希望があれば、高校側に相談していく。
教育課程	学習形態・学習内容	一人ひとりのニーズに対応できない一斉授業は難しい。導入等で全体で確認する場面があっても良いが、基本的には自由進度学習や、自分の得意な部分を伸ばす学習ができると良い。	学校としての年間学習計画をもとに個々の生徒が自分のペースや興味関心に応じた学習計画を立て、それにもとづいて学習を進めることも想定している。
学校規模	学びの多様な学校コース	定員は1学級10人程度で良いか。現在学校に通えていない生徒への保障として十分か。	オープンドアスクールは生徒が自分に合った学びをするための選択肢の1つであり、町全体として生徒たちの学びの場をつくっていきたいと考えている。
転入学時期	全体に関して	本人にとって必要なタイミングで転入学ができると、その後順調に学校生活を送ることができる。4月及び10月だけでなく、柔軟に対応できるようにしてほしい。	今後、状況を見ながら必要に応じて検討していく。
	学校体験	日数をどのように設定するかが難しいところである。本人が納得できるまで実施するのが望ましい。	今後、状況を見ながら必要に応じて柔軟に検討していく。
夜間中学コースの修業年限	全体に関して	何年で教育課程を修了できるかは生徒によって異なる。生徒の立場になり、柔軟に対応できるようにしてほしい。	新たな希望者にも配慮しつつ、可能な範囲で柔軟に対応したい。

軽井沢オープンドアスクール スクールコンセプト（最終案）

- ・学校に通えないなどの理由により、学校生活において様々な学びを十分に享受できていない学齢期の子どもたちや外国籍・外国由来の人たち、十分に享受できなかった学齢経過者が集い、教員や支援員など信頼できる大人とともに、それぞれのペースや空間で安心して学び、成長を実感できるインクルーシブでフレキシブルな学びの場を創造
- ・加えて既存の公立学校が子どもたちや保護者にとって、より魅力的な学びの場となるよう、設置するオープンドアスクールの理念や仕組み、学校文化や学校風土などの特長を積極的に導入

1 設置形態

- ・「学びの多様化学校」と「夜間中学」を併設した新たな学びの場
- ・軽井沢町立軽井沢中学校の分校として設置

2 対象生徒

- ・様々な事情で学校への登校が困難な生徒（不登校の子どもたち）
 - 軽井沢中学校在籍者（又は在籍予定者）を想定
- ・学齢経過者のうち、さまざまな理由により中学校で十分に学ぶことができなかった方
- ・日本の中学校にあたる教育を十分に受けていない外国籍又は外国由来の方
 - 軽井沢町だけでなく近隣市町村在住者も想定

3 設置場所

- ・町内の既存公共施設（必要な範囲で改修等を行い使用）
 - 軽井沢高等学校の北校舎

4 学びの姿

- | | |
|------------------|-----------------|
| ・自分のペースで学ぶ | ・自分に合った時間帯で学ぶ |
| ・自分らしさを大切にしながら学ぶ | ・多様な人とまじりあって学ぶ |
| ・自分の決めた方法で学ぶ | ・自分の学びたいことを多く学ぶ |
| ・体験的に学ぶ | ・探究的に学ぶ |

5 生活の姿

- | | |
|---------------------|----------------|
| ・ありのままでいられる場所 | ・安心できる居場所 |
| ・くつろいだり遊んだりできる場所 | ・十分に対話や雑談をする時間 |
| ・必要なことは自分たちで話し合って決定 | ・周囲に頼れる大人の存在 |

6 教職員

- ・展開される学びの姿や生活の姿を保障できる教員、ともに学び成長できる教員、管理的だったり上から目線ではない教員（教員研修の充実）
- ・教員に加えてＳＣ（スクールカウンセラー）、ＳＳＷ（スクールソーシャルワーカー）、特別支援教育支援員、ＳＳ（スクールサポーター）やボランティアなど

7 地域との連携

- 例
- ・体験的な学びや探究的な学び（軽井沢学）に関わる大人との交流
 - ・探究的な学びや部活動等課外活動に関わる高校生との交流

【資料 2－4】

(※赤字は、第 6 回設置準備会議を踏まえての修正)

軽井沢オープンドアスクール スクールデザインについて（最終案）

- 1 日課（別紙参照） 【資料 2－5】
- 2 教育課程（別紙参照） 【資料 2－6】
- 3 空間デザイン（別紙参照） 【資料 2－7】

4 学校規模

（1）学びの多様化学校コース

各学年 1 学級とし、1 学級の定員は 10 人程度、全体の定員は 30 人程度とする。

（2）夜間中学コース

各学年 1 学級とし、1 学級の定員は 5 人程度、全体の定員は 15 人程度とする。

5 転入学時期

	1 学年	2 学年	3 学年
学びの多様化学校コース	4 月及び 10 月（10 月は定員に空きがある場合）		
夜間中学コース	同上		

6 夜間中学コースの修業年限

生徒の希望や学習の状況によって、原則最大 6 年間までの在籍を可能とする。

(ただし、6 年間を超えて在籍したいという希望にも可能な範囲で柔軟に対応する。)

7 校名

「軽井沢オープンドアスクール」としたい。

ただし、開校後に生徒や教職員等の意見を聞きながら愛称等の必要性について検討する。

【資料 2－5】

軽井沢オープンドアスクールの日課（最終案）

※時間の名称は仮。

	基本の時間割
	2つのコース共通の時間
	希望に応じて学べる時間

時間	学びの多様化学校コース	夜間中学コース
10:30	開錠	
10:30～14:00	マイタイム	
14:00～14:40	マイプラントタイム①（40分）	
14:45～15:25	マイプラントタイム②（40分）	
15:30～16:10	1 時間目（40分）	この時間も、学びの多様化学校コースの生徒と共同で学ぶことも可能です。
16:15～16:55	2 時間目（40分）	
16:55～17:15	休憩（20分）	
17:15～17:55	3 時間目（40分）	3 時間目（40分）
18:00～18:40	4 時間目（40分）	4 時間目（40分）
18:40～19:00	この時間も、夜間中学コースの生徒と共同で学ぶことが可能です。	夕食・休憩（20分）
19:05～19:45		5 時間目（40分）
19:50～20:30		6 時間目（40分）
20:30～21:00		マイプラントタイム③（30分）
21:10	施錠 完全下校	

活動	内容	スクールコンセプトとの対応
学びの多様化学校	マイタイム（仮称）	「5 生活の姿」 ・ありのままにいられる場所 ・くつろいだり遊んだりできる場所 ・安心できる居場所
	マイプラントタイム①②（仮称）	「4 学びの姿」 ・自分のペースで学ぶ
共通	この時間は、学校が授業を行う時間として設定している時間です。 先生が前で説明したり、仲間と相談しながら学んだり、一人になって集中して学んだり……各自の思いや授業の内容によって、学び方はさまざまです。 3・4 時間目は、2つのコース共通の時間です。「軽井沢オープンドアスクール」ならではの交流が期待できます。	「4 学びの姿」 ・自分のペースで学ぶ ・自分らしさを大切にしながら学ぶ ・自分の決めた方法で学ぶ ・自分に合った時間帯で学ぶ ・多様な人とまじりあって学ぶ
夜間中学	夕食・休憩	
	マイプラントタイム③（仮称）	「4 学びの姿」 ・自分のペースで学ぶ

※各自の体調や都合に応じて、オンラインで授業に参加することもできます。

※既存の学校にある「朝の会」や「帰りの会」の時間はありますが、該当する活動や時間は、

各自の希望を聞きながら、必要に応じて柔軟に設定していきます。

※授業の間の休み時間以外にも、各自の体調等に応じて休憩をとりながら授業に取り組むことができます。

※職員の勤務時間は10:20～18:50（早番）／13:00～21:30（遅番）（いずれも休憩時間45分を含む）

【資料2-6】

軽井沢オープンドアスクールの教育課程（最終案）

○教科の授業時数を削減し、総合的な学習の時間の充実及び3つの教科を新設する

【学びの多様な学校コース】

		各教科の授業時数																		
		国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保体	技家	英語	とことん クエスト タイム	道徳	特別 活動	【新】 ヒュー マン タイム	【新】 ネイ チャー タイム	【新】 表現 タイム	総時数			
1 年	一般校	140	105	140	105	45	45	105	70	140	50	35	35	0	0	0	1015			
	軽井沢オープン ドアスクール	70	70	70	70	15	15	70	35	70	70	0	35	60	60	60	770			
2 年	一般校	140	105	105	140	35	35	105	70	140	70	35	35	0	0	0	1015			
	軽井沢オープン ドアスクール	70	70	70	70	15	15	70	35	70	70	0	35	60	60	60	770			
3 年	一般校	105	140	140	140	35	35	105	35	140	70	35	35	0	0	0	1015			
	軽井沢オープン ドアスクール	70	70	70	70	15	15	70	35	70	70	0	35	60	60	60	770			

【夜間中学コース】

		各教科の授業時数									とことん クエスト タイム	道徳	特別 活動	【新】 ヒュー マン タイム	【新】 ネイ チャー タイム	【新】 表現 タイム	総時数
		国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健	技家	英語							
全学年共通	軽井沢オープン ドアスクール	70	70	70	70	15	15	70	35	70	70	0	35	40	10	60	700

活動・教科	内容	スクールコンセプトとの 対応
とことん クエスト タイム (仮称)	○「総合的な学習の時間」にあたる時間。 ○クエスト＝「探究」。自分の興味関心に応じて、内容や方法等全て自分で 決めながら、じっくりと学びを深める。 ○個別最適な学びや多様な学びをセルフデザインするイメージ。	「4 学びの姿」 ・自分のペースで学ぶ ・自分らしさを大切にしながら学ぶ ・自分の決めた方法で学ぶ ・自分の学びたいことを多く学ぶ ・探究的に学ぶ
ヒューマン タイム (仮称)	○主に人文科学の視点から、自分自身や人間のあり方についての問いや社会的事象、人間関係の構築等を題材に、自己や他者、もの（資料）との対話を通して考えを深める。 ○道徳、国語、社会の削減分の補完を想定。 ○例として、以下のような活動が考えられる。 ・人間と自然との関わりのあり方について、ネイチャータイム（下記参照）とも関連させながら考えを深める。 ・自分のあり方や生き方について考える。 ・現在や過去の社会的事象について自分との関わりで考える。 ・多様な人との関わり方や、社会生活を送るうえで必要なスキル等について、実践を通して学ぶ（SST）。	軽井沢町の豊かな資源（自然、ひと、もの、こと等）を生かした学習を展開することで、生徒が興味をもち、より効果的な学習となることを目指す。 「4 学びの姿」 ・自分のペースで学ぶ ・自分らしさを大切にしながら学ぶ ・自分の決めた方法で学ぶ ・体験的に学ぶ ・多様な人とまじりあって学ぶ ・自分の学びたいことを多く学ぶ ・探究的に学ぶ 「7 地域との連携」
ネイチャー タイム (仮称)	○主に自然科学の視点から、町内の豊かな自然の中での体験活動や調査等を通して、教科の枠を超えた学習を行う。 ○国語、社会、数学、理科、技術・家庭、道徳の削減分の補完を想定。 ○例として、以下のような活動が考えられる。 ・キャンプや農業体験、天体観測等の屋外で自然や動植物と触れ合う活動の中での発見や疑問をもとに学習を進める。 ・身近な地域や日本、世界で起こっている出来事や課題を選び、解決に向けて複数の視点に着目して探究し、成果をまとめ、内容についてフィードバックを受ける。 ・調査内容の効果的なまとめ方や発表のしかた、それに伴うICT機器の利用のしかたについて学習する。	
表現タイム (仮称)	○さまざまな教科の要素を組み合わせた体験活動を通して、自己の表現力を磨き、他者と表現を認め合い、自己肯定感を高める。 ○国語、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、英語、道徳の削減分の補完を想定。 ○例として、以下のような活動が考えられる。 ・自分なりの表現方法（詩、歌、クラフト体験、ダンス、衣服の製作等）で表現し、その中での交流を行う。 ・表現活動を行うなかで、自分の思いを表現したり、伝え合ったりするために必要な方法やスキルを身につける。	

【資料 2－7】

軽井沢オープンドアスクールの空間デザイン(最終案)

- (1) 教室の配置や名称は仮。教室の名称や備品、具体的な使い方は、生徒の意見を反映させて決定する。
 (「5 生活の姿」必要なことは自分たちで話し合って決定)
- (2) 備品は、開校時に全て揃えることは想定せず、実情に応じて変更する。また、生徒が家庭から持参しても良い。
 (「5 生活の姿」ありのままでいられる場所)
- (3) 画像はイメージとして引用。引用元は以下の通り。
 岐阜市立岐阜小学校ホームページ(★) 岐阜市立草潤中学校学校案内(☆)
 大阪市立心和中学校視察時の様子(●) 軽井沢中学校(○) 軽井沢町教育支援センター(◆)
- (4) 校内の主な空間のみを記載。

のびルーム (仮称)	わいわいラボ (仮称)	シークレットベース (仮称)
 ★ ☆	 ● ☆	 ☆ ●
学びを通して、一人ひとりの意欲やできることを広げる空間 (「4 学びの姿」自分のペースで学ぶ) ・授業で主に使う空間です。 ・先生が前で説明したり、仲間と相談しながら学んだり、一人になって集中して学んだり……各自の思いや授業の内容によって、学び方や空間の使い方はさまざまです。	「わいわい」つながり、新しいアイデアややる気生まれる空間 (「5 生活の姿」くつろいだり遊んだりできる場所・十分に対話や雑談をする時間) ・仲間と話し合いをしたり、協働学習をしたりするときに使う空間です。 ・ラボ=laboratory (実験室) 仲間と対話やゲームをしたり、本を読んだり……人やものとのつながることで、新しいアイデアや活動へのやる気生まれることが期待できます。	一人で過ごし、エネルギーをためる空間 (「5 生活の姿」安心できる居場所) ・なんとなく疲れたな、他の人と過ごすのがしんどいな、というときに使う空間です。 ・シークレットベース=secret base (秘密基地) ここではおしゃべりはせず、個々でゆったり過ごすことで、エネルギーをためられるようにします。
スタッフルーム (仮称)	保健室 (仮称)	カウンセリングルーム (仮称)
 ◆ ☆	 ○ ○	 ● ●
学校で生徒を支える大人が集える空間 (「5 生活の姿」周囲に頼れる大人の存在)	生徒のけがや心身の不調に寄り添える空間 (「5 生活の姿」安心できる居場所・周囲に頼れる大人の存在)	スクールカウンセラーやスクールサポーター等と相談ができる空間 (「5 生活の姿」安心できる居場所・周囲に頼れる大人の存在)

【資料 3－1】

第 6 回設置準備会議における 「軽井沢オープンドアスクール 学校案内」に関わる 意見・質問と事務局対応

R8. 3. 5時点

ページ	内容	委員の皆様からの意見・質問	事務局の対応
20ページ	教職員の紹介の追加	・ オープンドアスクールにどんな先生がいるか分からず、生徒は不安であると思われる。教職員の写真を掲載できると良いのではないかな。	・ 人事異動の関係があり、開校年度に発行する学校案内には掲載できないが、2 年目以降は掲載をするとともに、学校説明会や学校体験等で教職員を知ってもらう機会を設けていきたい。
	学びの多様化学校コースの紹介	・ 「みんなと同じように成績もつけてほしい」の記載は、解釈の違いによる誤解を与えないような表記を検討した方が良い。	・ 成績については慎重に検討する必要がある、より当事者の児童生徒の願いに寄り添った表現にする必要があると判断し、【資料 3－2】の通り表記内容を変更した。
23ページ	Q & A Q 5	・ 国では、校内外の教育支援センターを利用している児童生徒に特別の教育課程を編成可能とする方向で検討を進めている。オープンドアスクールでは、しばらく学校に登校できていなかった生徒や、学習内容を先に進めた方が良いと思われる生徒について、どのように学びを保障しようと考えているか。みんなで共通で学ぶ部分も大切だが、特定の教科については内容をさかのぼって学習する等、柔軟に対応できると良い。	・ 学校としての年間学習計画をもとにしつつも、個々の生徒が教員と相談しながら自分のペースや興味関心に応じた学習計画を立てて対応することも想定している。学習内容をさかのぼること、進めることの両方について、個々の生徒の実態に合わせて対応していく。
	Q & A Q 6	・ 成績のつけ方について、国の検討の過程を見ても簡単にはいかないのではないかと考える。丁寧な検討が必要である。 ・ オープンドアスクールに入学した時に、高校受験で不利にならないかということが本人も保護者も気になると思われる。不利にならないと記載すると安心できるかもしれない。	・ 国の指針が出されたところでそれに則り進めるが、引き続き協議を重ねていく。現状は【資料 3－2】の通りとする。 ・ 本人や保護者が不安にならないよう記載に留意するとともに、学校説明会等でも丁寧に説明していきたいと考えている。
	Q & A Q 8	・ 記載内容について、解釈の違いによる誤解を与えないような表記を検討した方が良い。	・ 【資料 3－2】の通り表記内容を変更した。
24ページ	入学・転入学（全般）	・ 各小学校や中学校へのアウトリーチや丁寧な説明が必要である。	・ 各学校と連携し、そのように実施していく。
全体に関して	オンラインの活用	・ オープンドアスクールで、オンラインをどのように活用していくか。現場の教職員に対応が丸投げとならないよう検討をお願いしたい。	・ これまでのオンライン利用実績を踏まえ、活用方法を検討していく。
	動画の作成	・ 学校案内の内容を説明する動画（ショート動画）があると良いのではないかな。	・ 作成し、学校案内に二次元コードを記載する方向で考えたい。

軽井沢町立軽井沢オーブンドアスクール

令和9年度 学校案内(案)

この学校のドアは、みなさんに開かれています。



軽井沢町教育委員会

動画でもご覧
いただけます



軽井沢オープンドアスクールって、どんな学校？

長野県初の、「学びの多様化学校コース」と「夜間中学コース」を併設した
多様な方が集い、共に学び、共に成長できる新しい学校（軽井沢中学校の分校）です。

- 授業は、複数の教員により、一人ひとりの状況に合わせてきめ細かく支援を行います。
- AI 教材を活用したり、少人数やグループなどで学習したり、オンラインで学習したりすることもできます。
- 校則はありません。服装や髪型、持ち物等も自由です。
- 規則等が必要になった場合は、生徒と教職員で相談していきます。

<学びの多様化学校コース>

学校を休みがちだったり、行きづらかったりする生徒の、こんな願いに寄りそいます。

自分に合った
学び方を選び
たい

自分の好きな
ことをとことん
学びたい

しんどくなった
ら休憩できる
部屋がほしい

1日の過ごし
方を自分で考
えて決めたい

<夜間中学コース>

義務教育の年齢を過ぎた方や外国由来の方の、
こんな願いに寄りそいます。

仕事や生活の
ために学びた
い

後悔しないよ
うに学び直し
たい

中学校卒業資
格をとり、高校
に進学したい

もう一度中学
校生活をやり
直したい

<こんな居場所をつくります(予定)>



学びを通して、一人ひとりの
意欲やできることを広げる場所



仲間とつながり、新しいアイデア
ややる気生まれる場所



一人で過ごし、
エネルギーをためる場所



生徒を支える大人が集う場所



けが、心や体の不調のときに
過ごせる場所



悩みや不安をだれかに
相談できる場所

軽井沢オープンドアスクールの日課

基本の時間割

2つのコース共通の時間

希望に応じて学べる時間

時間	学びの多様化学校コース	夜間中学コース
10:30	開錠	
10:30～14:00	マイタイム	
14:00～14:40	マイプラントタイム①（40分）	
14:45～15:25	マイプラントタイム②（40分）	
15:30～16:10	1時間目（40分）	この時間も、学びの多様化学校コースの生徒と共同で学ぶことも可能です。
16:15～16:55	2時間目（40分）	
16:55～17:15	休憩（20分）	
17:15～17:55	3時間目（40分）	3時間目（40分）
18:00～18:40	4時間目（40分）	4時間目（40分）
18:40～19:00	この時間も、夜間中学コースの生徒と共同で学ぶことが可能です。	夕食・休憩（20分）
19:05～19:45		5時間目（40分）
19:50～20:30		6時間目（40分）
20:30～21:00		マイプラントタイム③（30分）
21:10	施錠 完全下校	

	活動	内容
学びの多様化学校コース	マイタイム（仮称）	リラックスして好きなことをする、総合的な学習の時間にあてる、昼食（お弁当や家庭科室で調理したもの）（給食はありません）をとるなど、学校を居場所として、自分の興味にもとづいて過ごす時間です。この時間に登校することもできます。
	マイプラントタイム①②（仮称）	自分の計画にもとづいて自学自習をしたり、先生に質問をしたりすることができる時間です。この時間に登校することもできます。 週2日程度は、マイプラントタイム②が授業の時間となります。
共通	1～6時間目	この時間は、学校が授業を行う時間として設定している時間です。 先生が前で説明したり、仲間と相談しながら学んだり、一人になって集中して学んだり……各自の思いや授業の内容によって、学び方はさまざまです。 3・4時間目は、2つのコース共通の時間です。「軽井沢オープンドアスクール」ならではの交流が期待できます。
夜間中学コース	夕食・休憩	この時間に各自が持参した食事をとることができます（給食はありません）。
	マイプラントタイム③（仮称）	自分の計画にもとづいて自学自習をしたり、先生に質問をしたりすることができる時間です。

＜一人ひとりに合った学び方や過ごし方ができます（例）＞

Aさん （学びの多様化学校コース）		Bさん （学びの多様化学校コース）		Cさん （夜間中学コース）	
 朝は早めに登校し、自分の好きなことにじっくり取り組んで、早めに下校します。		 体調が整う午後から登校し、夜間中学コースとの共通授業にも参加します。		 仕事の後に4時間目から登校し、自学自習もして下校します。	
10:30～14:00	植物の観察	14:45～15:25	授業までリラックスして過ごす	18:00～20:30	授業に参加
14:00～14:40	観察で疑問に思ったことを先生に質問	15:30～17:55	授業に参加（体調によってはオンラインで参加）	20:30～21:00	先生に質問しながら授業の復習
14:45	下校	18:00	下校	21:10	下校

軽井沢オープンドアスクールでの学び^(教育課程)

○授業は、1コマ40分です。

○1週間に行う授業時数は、学びの多様化学校コース22時間（1日に4～5コマ）、夜間中学コース20時間（1日4コマ）です。

○年間の総授業時間数は、学びの多様化学校コース770時間、夜間中学コース700時間です。

（一般的な中学校の総授業時間数は1015時間です）

○軽井沢町の豊かな資源（自然、ひと、もの、こと等）を生かした学習が特徴です。

また、一般の中学校で学習する教科の時間の他に、下にあるような学校独自の時間があります。

【とことんクエストタイム（仮称）】

○クエスト＝「探究」。

自分の興味関心に応じて、
内容や方法等全て自分で
決めながら、じっくりと学びを
深めます。



【ヒューマンタイム（仮称）】

○例えば、こんな学習を考えています。

- ・自分のあり方や生き方について考える。
- ・現在や過去のできごとについて、自分との関わりで考える。
- ・多様な人との関わり方や、社会生活を送るうえで必要なスキル等について、実践を通して学ぶ。



【ネイチャータイム（仮称）】

○例えば、こんな学習を考えています。

- ・キャンプや農業体験、天体観測などの屋外で自然とふれ合う活動の中での発見や疑問をもとに学習を進める。
- ・身近な地域や日本、世界で起こっている出来事や課題を選び、解決に向けて探究し、成果をまとめ、内容についてフィードバックを受ける。
- ・調査内容の効果的なまとめ方や発表のしかた、ICT機器の利用のしかたを学ぶ。



【表現タイム（仮称）】

○例えば、こんな学習を考えています。

- ・自分なりの表現方法（詩、歌、クラフト体験、ダンス、衣服の製作等）で表現し、その中での交流を行う。
- ・表現活動を行うなかで、自分の思いを表現したり、伝え合ったりするために必要な方法やスキルを身につける。



軽井沢オープンダスクールの Q&A

Q1: 学校ですか? フリースクールですか?
軽井沢町立の学校です。フリースクールではありません。ただし、「学びの場」や「居場所」の役割があるということでは共通の点もあります。
Q2: どんな人が入学できますか? 定員はどれくらいですか?
くわしくは、〇ページをご覧ください。
Q3: 本校での活動(授業や行事、部活動等)に参加できますか?
軽井沢オープンダスクールでの活動が基本となりますが、本校と相談のうえ参加できる場合もあります。
Q4: 登下校の方法は?
学校から指定はしません。各自安全な方法で登下校してください。
Q5: 所属学年で扱わない学習内容にも対応できますか?
学習内容をさかのぼること、学習内容を進めることの両方について、一人ひとりの学習状況に応じて学ぶことができます。
Q6: 成績はどのようにつけますか?
学習状況をもとに、個別に文章(生徒が努力した内容等についての励ましや助言)により行う予定です。進学の際等必要な場合は、5段階による評定をつけます。
Q7: どんな学校行事がありますか?
入学式と卒業式(ただし、既存の学校の内容とは異なる形を想定しています)以外の行事は、入学後に生徒と教職員で話し合い、決定していきます。学校行事は、2つのコースで合同で行うことも考えています。
Q8: どんな費用がかかりますか?
町立の学校なので、授業料や教科書代は無料です。ただし、校外活動や学習等で必要となる場合には負担していただくことがあります。
Q9: 卒業後の進路は?
既存の中学校と同じで、公立・私立の高等学校(全日制・定時制・通信制)、専修・専門学校等、本人の希望する進路先に向けて支援していきます。
Q10: 既存の中学校のような学級活動や生徒会活動、部活動はありますか?
入学後に生徒と教員とを交えて話し合い、希望や必要に応じて行っています。
Q11: 仕事の都合で週に数日しか通うことができませんが、夜間中学コースに入学できますか?
原則として毎日通うことを前提としていますが、学ぶ意欲等があれば入学できます。最長6年間在籍できるので、時間をかけて学ぶこともできます。
Q12: 夜間中学コースで、日本語の勉強をしたいと考えています。日本語の授業だけに出席することはできますか?
中学校の教育課程を学ぶことが目的なので、日本語の修得のみを目的とした入学は認められません。

【基本情報】



〒389-0102 長野県北佐久郡軽井沢町軽井沢 1323-43

TEL:0267-42-2390 FAX:0267-41-1014

<電車> 軽井沢駅より約 1.7km (徒歩約 25 分)

<バス> バス停「高校前」より約 200m (徒歩約3分)・「離山」より約 450m (徒歩約6分)

こんな方の入学をお待ちしています

○学びの多様化学校コース・夜間中学コースともに、4月及び10月が入学時期となります。

○定員を超える希望があった場合や、要件を満たしていない場合は入学できない場合があります。在籍校との連携（学びの多様化学校コースのみ）や、町教育委員会の担当者との面談等を通して、最終的な入学者を決定します。

(1) 学びの多様化学校コース（定員：各学年10人程度、全体で30人程度）

以下の①・②を満たすとともに、③・④のいずれかを満たす必要があります

- ①軽井沢町立小学校6学年及び軽井沢中学校1・2学年に在籍している児童生徒
- ②軽井沢オープンドアスクールで学びたいという思いのある児童生徒
- ③病気や経済的な理由を除き、年間30日以上（日数は目安）の欠席がある児童生徒
- ④校内教室支援センターや軽井沢町教育支援センターで過ごす時間が多かったり、学校への行きづらさを感じ、欠席がちであったりする児童生徒

(2) 夜間中学コース（定員：各学年5人程度、全体で15人程度）

以下の①・②を満たすとともに、③～⑤のいずれかを満たす必要があります

- ①学齢期（15歳になってから最初の3月31日まで）を過ぎた方
- ②軽井沢町内または協定を結んだ近隣の市町村在住の方
- ③小学校や中学校を卒業していない人
- ④中学校を卒業したが、十分学べなかったので、もう一度学び直したい人
- ⑤本国や日本で義務教育を修了していない外国籍または外国由来の方

入学・転入学までの流れ（令和9年4月入学の場合）

くわしくは、別紙「入学・転入学のてびき」をご覧ください。

